

第9回 同志社大学「新ビジネス」フォーラムを開催

日時 2023年3月8日（水）

開催方法 ハイブリッド形式（会場・オンライン同時開催）

開催場所 同志社大学 東京サテライト・キャンパス

3月8日（水）に、第9回「新ビジネス」フォーラムを開催しました。ここ数年はコロナ禍によりオンラインでの開催としておりましたが、今年は東京サテライト・キャンパスにて会場開催するとともに、その内容をオンラインで配信するハイブリッド形式にて開催しました。

今回は、「飛躍的に進化する人工知能・AI とヒトとの関わり」と題し、本学が取り組んでいる人工知能・AI 分野の先端的な研究内容について、社会学部より1名、理工学部より3名の教員が登壇し、それぞれの研究シーズを紹介しました。

はじめに、社会学部の勝野 宏史准教授より、「感情認識技術を介した人と機械との関係性」をテーマに、感情認識技術の登場によって変容しつつある人とロボットの関係性について、文化人類学とメディア研究の視点から、感情認識技術の導入における問題点、日本と西洋の歴史的背景を比較しながら、それぞれの国における AI・ロボットと人との関わり方の違いや、将来の人との関係性についての研究・考察事例を紹介しました。

次に、理工学部・木村 共孝准教授より、「機械学習を用いたフィッシング詐欺への対抗」をテーマに、分散型ボットネットのウイルス感染シミュレーション事例とフィッシング詐欺を防ぐためのセキュリティ対策として、従来の方法より少ない情報量で高い精度が得られる URL や DNS 情報を逐次的に利用する逐次型フィッシング検知方法を紹介しました。

続いて、理工学部・大崎 美穂教授から、「小中規模データ活用と説明可能性のための機械学習と知識発見」をテーマに、着目事象の表出頻度が極めて小さい不均衡データの分類手法についての汎用性のある研究と、左右の頸動脈波の差異から特徴量を抽出しと機械学習により脳閉塞を推定することに特化した研究の最新状況を紹介しました。

最後に、人工知能工学研究センター長でもある理工学部・土屋 誠司教授より、「常識を持った新時代のハイブリッド型人工知能」をテーマに、現状の人工知能の課題を紹介した後、それら課題を根本的に解決するために、「常識を持った人工知能の開発」を目指すとして、産学連携を含む現在の研究概要や同センターが保有する人工知能環境実験装置を紹介しました。

会場・オンライン共に、多くの申し込みを受け、当日は、会場 16 名、オンライン 95 名に参加いただきました。会場では、講演終了後に名刺交換会も実施し、活発なディスカッションが繰り広げられ、この分野に対する関心の高さを実感できるフォーラムとなりました。



会場の様子



（左より、加藤将樹リエゾンオフィス所長、大崎美穂教授、木村共孝准教授、勝野宏史准教授、土屋誠司教授）



名刺交換会の様子